

平成 17 年 5 月 6 日
東北電力株式会社

東通原子力発電所 1 号機復水器水室（A）からの海水の溢水について

東通原子力発電所 1 号機は、平成 17 年 5 月 2 日より計画停止中のところ、5 月 4 日 12 時 8 分頃、タービン建屋地下 3 階で水が溢れていることを示す警報が発生しました。運転員が現場を確認したところ、同階にある復水器水室^{（注）}（A）（以下、「水室 A」という。）の点検口 3 箇所（作業のため開放中）から床面に海水が溢れている（総量：約 2 m³）のを発見しました。溢れた海水は非放射性であり、既に全て回収しております。また施設外への流出はなく、本事象による発電所周辺への放射能の影響はありません。（添付資料 1、2、3 参照）

原因は以下のとおりです。

- 水室 A および水室 B の海水を復水器水室水抜き槽へ抜く配管は共通配管でつながっており、海水を抜く作業を完了した水室 A の排水弁は開弁したままであった。
- 水室 A は、点検のため点検口 3 箇所を開放していた。
- 水室 B から復水器水室水抜き槽へ海水を抜く作業が行われていた。

以上から、水室 B から開弁していた排水弁を通して海水が水室 A へ流れ、開放中の水室 A の点検口から建屋内に溢れたものです。

今後、復水器水室の点検作業にあたっては、他の水室の水抜きによる海水の流入を防ぐため、当該排水弁を海水抜き完了後全閉とします。

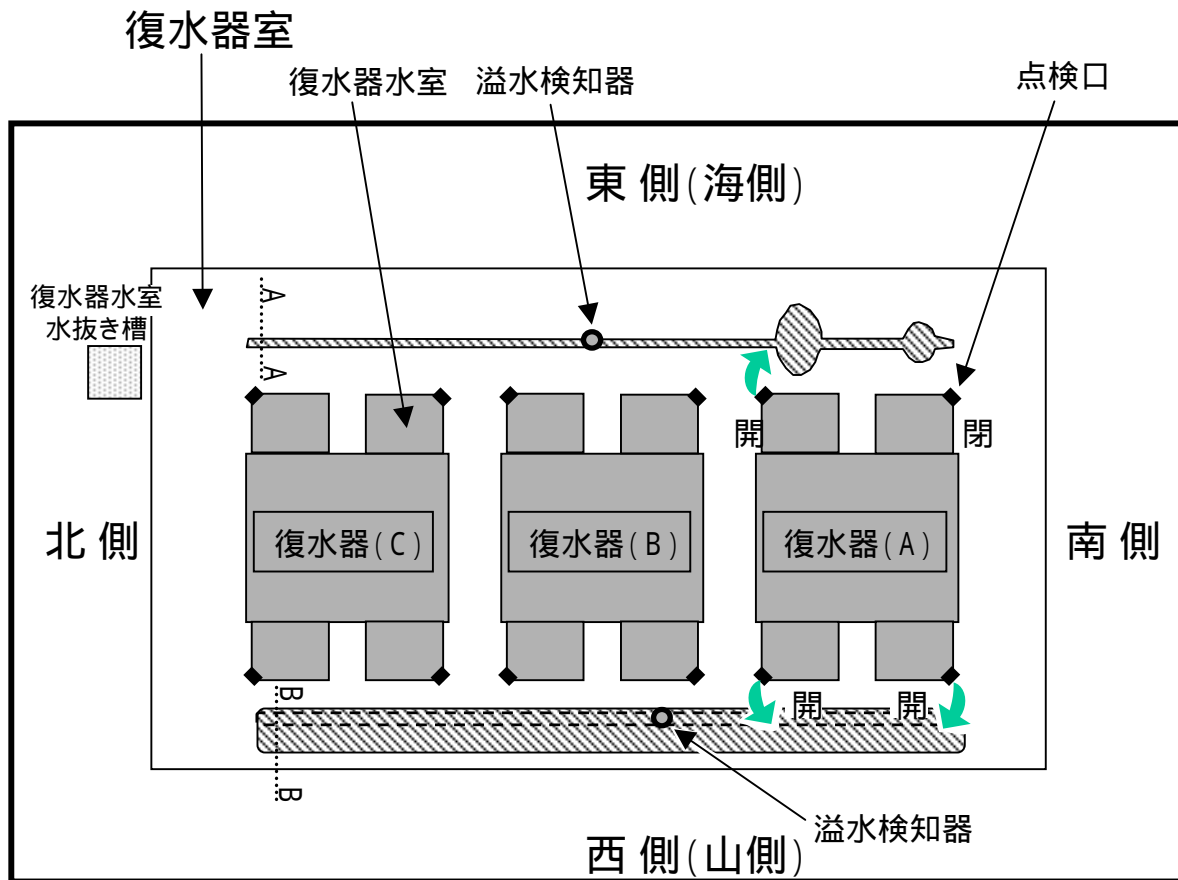
また、今回は同時期に行われる作業間の連絡調整が不十分であったことも一因として考えられるため、短期間の計画停止時であっても、連絡調整を行う場において確実に作業間の調整を行ってまいります。

なお、本事象は、法律に基づく報告事象ではありません。

以 上

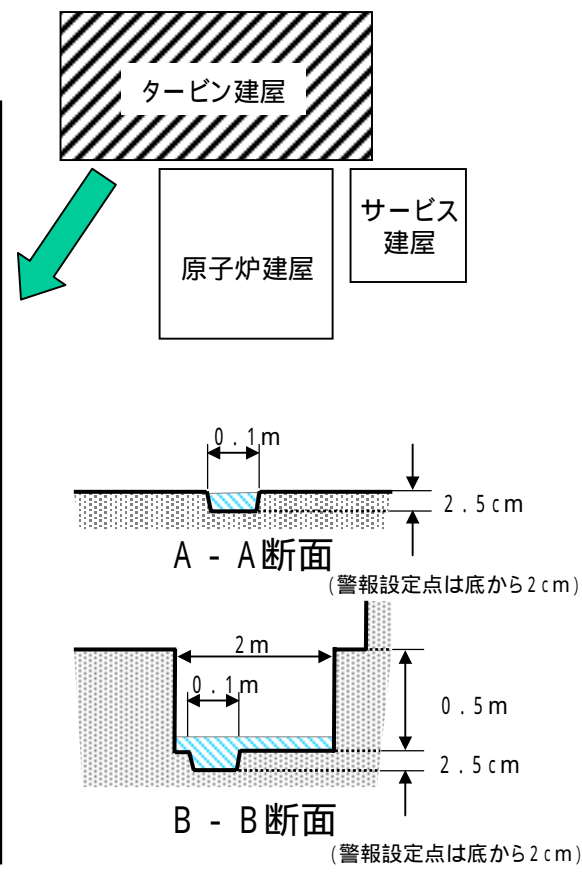
（注）「復水器水室」とは

復水器は、発電のためタービンを回し終えた蒸気を海水で冷やし、再び水に戻す設備です。1 号機には復水器が 3 つあり、各復水器には海水の入口側と出口側に多数の細管へ海水を分配集合させる水室があります。



タービン建屋地下3階(平面図)

溢水発生場所(位置図)



溢水箇所:

主 要 系 統 図

